

## 妊娠出産情報入手媒体としての携帯メール：入手を希望する情報と属性との関連

平野，裕子  
九州大学医学部保健学科看護学専攻

小原，裕子

平田，伸子  
九州大学医学部保健学科看護学専攻

<https://doi.org/10.15017/3269>

---

出版情報：九州大学医学部保健学科紀要. 7, pp.1-12, 2006-03. 九州大学医学部保健学科  
バージョン：  
権利関係：

原 著

## 妊娠出産情報入手媒体としての携帯メール - 入手を希望する情報と属性との関連 -

平野 (小原) 裕子<sup>1)</sup> 平田伸子<sup>1)</sup>

### Cell phone as a Media to Collect Medical Information for Pregnancy and Delivery - Correlation between Attribution and Preference of Collecting Information -

Yuko Ohara-HIRANO, Nobuko HIRATA

#### Abstract

This is a basic study on the preference of using cell phones to collect information for pregnancy and delivery. Data was collected by distributing questionnaire to those who attended parental school programs.

A total of 155 respondents, including 85 females and 70 males, were asked whether they would prefer using cell phones when they need to collect information for pregnancy and delivery. The most frequently preferred information is "Information on maternal classes" (65.4%), followed by "Information on hospitals through impression of mothers and families", "Information on social welfare system on child rearing and bearing", and "Information on child care utensils" (60.8% respectively).

The result of Chi-square test indicated that those who had social support to ask for information on pregnancy and delivery were more likely to prefer using cell phones to collect information on "prenatal tests" ( $p < 0.05$ ), "personal experience of delivery" ( $p < 0.01$ ) than their counterparts.

On the other hand, those who had internet-accessible personal computers at their home or their work place were less likely to prefer using cell phones to collect information on "hospital facilities" ( $p < 0.01$ ), "hospitals through impression of mothers and families" ( $p < 0.001$ ), "prenatal tests" ( $p < 0.05$ ), "food to avoid eating during pregnancy" ( $p < 0.01$ ), "delivery method" ( $p < 0.05$ ), "baby's growth process" ( $p < 0.05$ ) and "to know how other pregnant mothers control their weight" ( $p < 0.05$ ).

The result of this study suggested that those who are rich in experience of using personal computers are likely to know the merit and demerit of using cell phones to collect information, as information provided through cell phone is limited, due to the capacity of data transmitting and browsing.

Key Words: cell phone 携帯電話 information 情報 social support 社会的支援  
pregnancy and delivery 妊娠・出産 IT (information technology) IT

---

1) 九州大学医学部保健学科看護学専攻

## 和文抄録

本研究は、妊娠・出産情報を収集する手段としての携帯メールの使い方に関する基礎的研究である。データは、出産前教室の参加者に対する調査票を配布して入手した。

計 155 名の回答者（うち、女性 85 名、男性 70 名）は、予め想定された 21 項目の妊娠・出産情報を入手するのに携帯メールを使うことを希望するかどうかを尋ねられた。携帯メールを用いて入手することが最も希望される情報は「マタニティ教室の情報」（65.7%）であり、続いて「出産する病院選びの際、ある病院についての評判を知りたい時」「お産に関する休暇制度（産休・育休など）の内容について知りたい時」「ある育児用品について、それを使っている人の感想を知りたい時」（各 60.8%）の順で多かった。

カイ二乗検定の結果、妊娠・出産に関する社会的支援を持っている者は、そうでない者に比べ、よりよく携帯メールを使って妊娠・出産情報、具体的には、「妊娠中の検査について知りたい時」（ $p<0.05$ ）、「先輩ママの出産体験について知りたい時」（ $p<0.01$ ）について入手する傾向があった。

一方、インターネットに接続することのできるパソコンを、自宅や職場に持っているかどうかと、「出産する病院選びの際、ある病院の施設や特色について知りたい時」（ $p<0.01$ ）「出産する病院選びの際、ある病院についての評判を知りたい時」（ $p<0.001$ ）「妊娠中の検査」（ $p<0.05$ ）「妊娠中に妊婦さんが食べてはいけない物について知りたい時」（ $p<0.01$ ）「出産の方法の概要について知りたい時」（ $p<0.05$ ）「赤ちゃんの成長具合について知りたい時」（ $p<0.05$ ）「他の妊婦さんがどのように体重管理をしているか知りたい時」（ $p<0.05$ ）の各項目では有意な差を見た。それぞれ、パソコンを持っている者で、そうでない者よりも、携帯メールを使って情報を収集する傾向が少なくなっていた。

本研究の結果は、パソコンを使う頻度の高い者は、携帯メールの長所、短所を知ることができ、受信可能な容量の限度を知っていることから、携帯メールを使うことを敬遠する傾向があると思われた。

### 1. はじめに

今日のIT(Information Technology)の発展には著しいものがあり、生活の全部面において、私たちがITを用いないで情報を収集することは事実上できなくなっているのが現状である。ITの媒体として、最近爆発的に普及しているのが携帯電話である。携帯電話の普及率はめざましく、総務省が平成17年5月10日に発表した「平成16年通信利用動向調査」によると、携帯電話・PHSの利用者は65.1%（前年度比7.7%増）と報告されているが、年代別にみても、全ての年代において0.1%から12.9%増加していることが報告されている。その中でも特に、20歳代では95.2%、30歳代では89.1%と、9割近いことが明らかになっている。また、携帯電話の利用状況も、音声通話のみの利用者は10.5%（前年度比22.8%減）である反面、

インターネット（ウェブ）の利用者が増加するなど、インターネット端末としての携帯電話の役割が大きくなってきたことをうかがわせる。その結果、いまや携帯電話を用いてインターネット（ウェブ）にアクセスする者の割合も、5,825万人と、6歳以上のインターネット利用者総数7,948万人の73.3%を占めるようになった<sup>1)</sup>。

携帯電話の普及が著しくなるに従い、携帯電話端末からアクセスすることのできるインターネット（ウェブ）のサイトも増えてきた。その内容としては、「電子メール」（74.3%）、「着メロ等、音楽のダウンロード・視聴」（50.1%）、「画像のダウンロード」（32.9%）、「ニュース等の情報入手」（26.4%）、「情報検索」（16.1%）の順で多かった<sup>2)</sup>。一方、健康情報を発信する側のサイトとしては、日本体育協会が監修した救急救命の方法を配信した

ものなど、最近しばしば見られるようになったが、ユーザのニーズをきちんと把握したコンテンツは多くなく、玉石混交であるのが実態である。

本稿の著者、平野らは、携帯電話を用いて妊娠・出産に関する健康情報を提供するシステムを構築するための基礎的なデータ収集に関する研究にたずさわっている。妊娠とは、妊婦にとって、身体的精神的社会的<sup>3-5)</sup>にストレスフルなライフイベントであり、妊婦をめぐる様々なストレスが、うつなどの精神的疾患を引き起こす危険性もあることが指摘されている<sup>6-7)</sup>。従って、妊婦の精神的健康の増進を目的とした支援システムを作っておくことは有効であると思われる。携帯電話という極めて普及率の高いメディアを用いて、妊産婦に対する健康情報を提供するシステムを構築することは、今日的な意義があると思われる。

平野らの先行研究の結果では、男女共に8割以上が携帯電話のメール機能（以下「携帯メール」）を利用していること、また、携帯メールは、携帯電話でアクセスすることのできる、妊娠・出産に関する健康情報に限定したサイトがほとんどない今日においてさえ、妊娠・出産の情報を得るための手段として用いられていることが明らかになった。一方、自由回答の結果は、入手したい情報ごとに、携帯電話とパソコンを使い分ける傾向があることを示した。言い換えれば、利用者としては、どのような情報でも提供しうる万能マルチメディアとしての携帯電話は期待していないことが明らかになったのである<sup>8-9)</sup>。

これらの結果から、今後携帯電話を用いた妊娠・出産に関する健康情報コンテンツの構築にあたり、利用者が、どのような情報をどのようなメディアを通じて入手することを希望しているかという傾向について明らかにする必要があると示された。そこで本研究では、携帯電話の中でも最近とみに利用度があがってきている携帯メールに着眼し、妊娠・出産に関する健康情報を、携帯メールを使って入手することを希望する傾向（以下「携帯メール利用希望傾向」）を、情報の内容ごとに、属性（年齢、性別、妊娠時期、上の子どもの有無）、社会的支援の有無、および携帯電話・パソコンと

いったITメディアの保有の実態や利用状況との関連を明らかにした。このことを通して、妊娠・出産に関する健康情報コンテンツの利用者の予想されるニーズを予め把握することができると考えた。

## 2. 対象と方法

本研究の対象者は、乳児用品会社が主催し、九州における拠点都市、F市内で行われた出産前準備教室の出席者155名である。研究の進め方としては、教室の実施時に調査票を全参加者に配布し、教室終了後その場で回収することでデータ収集に努めた。なお、倫理的配慮として、匿名性をとり、回答者のプライバシーの保護に留意した。また、調査協力依頼の際には、本調査の趣旨に賛同する者に対してのみ回答を依頼し、それ以外の者に対しては回答を強制しないように配慮した。

本研究で用いられた調査票は以下のように、三部に分かれている。第一部では、出産準備教室に参加している妊産婦の妊娠時期および、妊娠中の子供を除いた子供の有無を設問した。第二部では、回答者自身の年齢、性別、社会的支援の有無を測る目的で、すぐに相談できる最近出産した人やその家族の有無を設問した。第三部では、携帯電話の保有の有無を尋ね、携帯電話を保有する者にあつては、その利用状況について、携帯ウェブ（いわゆる「i-モード」「EZweb」「Vodafone live!」などのインターネット接続サービス）および携帯メールの使用頻度を、「ほとんど毎日」「2、3日に一度」「一週間に一度」「一ヶ月に一度」「使わない」の順で尋ねた。また、家庭または職場にインターネット（ウェブ）のできるパソコンの保有の有無を尋ね、パソコンを保有する者にあつては、その利用状況について、インターネット（ウェブ）および電子メールの使用頻度を、「ほとんど毎日」「2、3日に一度」「一週間に一度」「一ヶ月に一度」「使わない」の順で尋ねた。

また、現在携帯電話を持っていると仮定し、携帯メールを利用して収集すると想定される妊娠・出産に関する情報や相談内容に関し、先行研究などを参照しあらかじめ想定された21項目について

で、「使うと思う」から「使わないと思う」まで4件法で尋ねた。また、現在携帯電話やパソコンを用いて入手したい情報や相談ごとの内容について、自由記述式の設問を行った。

本研究の分析方法としては、まず携帯電話の携帯ウェブおよび携帯メールの使用頻度、パソコンのインターネット（ウェブ）と電子メールの使用頻度について、「ほとんど毎日」と回答した者とそうでない者に2分割した。また携帯メールを利用して収集すると想定される妊娠・出産に関する情報や相談内容については、「使うと思う」「どちらかといえば使うと思う」と、「どちらかといえば使わないと思う」「使わないと思う」に2分割した。次に、各属性と、上記で2分割したグループごとに、カイ二乗検定を行った。なお、対象者の年齢の性別比較についてはT検定を用いた。

### 3. 結果

#### (1) 対象者の属性

本研究による回収票は、合計155人であった（有効回収率89.6%）。その結果、対象者の内訳は女性85名（54.8%）、男性70名（45.2%）であった。対象者の平均年齢は、全体では平均31（SD4）歳であったが、性別では、女性30（SD3）歳、男性

32（SD4）歳、で、男性の方が有意に高かった（ $p < 0.001$ ）。

今回の出産前準備教室に参加した妊婦の妊娠時期について女性による回答を見ると、平均は30（SD5）週、最低18週、最高38週であった。また、妊娠中の子供を除いた子供の有無（以下「上の子ども」の有無）については、いないと答えた人が143人（92.3%）であった。

#### (2) 社会的支援

本研究では、社会的支援として、最近妊娠・出産を経験した人で、すぐに相談できる人（以下「先輩ママ」）の有無を尋ねた。その結果、「先輩ママ」がいると回答した者は129名（83.2%）に上っていた。特に、女性（89.4%）において、男性（75.7%）よりも「先輩ママ」がいると回答した率が有意に高くなっていた（ $p < 0.05$ ）。

#### (3) 携帯電話の保有およびその利用状況

本研究では、携帯電話を持っていると回答した者は150名（96.8%）であり、性別では、女性80人（94.1%）、男性70人（100.0%）であった。

次に、携帯電話を持っていると回答した者に、携帯ウェブを利用する頻度を尋ねたところ、

表1 本研究の対象者

		mean	sd	n	%
年齢（歳）	全体	31	4		
性別	女性			85	54.8%
	男性			70	45.2%
妊娠期間（週）		30	5.1		
上の子ども	いる			12	7.7%
	いない			143	92.3%
すぐに相談できる先輩ママがいる	いる			129	83.2%
	いない			26	16.8%
携帯電話の保有	有			150	96.8%
	無			5	3.2%
携帯ウェブ毎日利用	する			26	17.3%
	しない			124	82.7%
携帯メール毎日利用	する			91	62.8%
	しない			54	37.2%
PCの保有	有			127	81.9%
	無			28	18.1%
インターネット（ウェブ）毎日利用	する			74	58.3%
	しない			53	41.7%
電子メール毎日利用	する			55	43.7%
	しない			71	56.3%

「ほとんど毎日利用する」と回答した者は、26人（17.3%）、性別では、女性10人（12.5%）、男性16人（22.9%）であった。

また、携帯電話を持っていると回答した者に、携帯メールを利用する頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日利用する」と回答した者は、91人（62.8%）、性別では、女性55人（71.4%）、男性36人（52.9%）で、女性の割合が有意に高かった（ $p<0.05$ ）。

**(4) パソコンの保有およびその利用状況**

また、現在職場または家庭に、インターネット（ウェブ）のできるパソコンを持っていると回答した者は127名（81.9%）であり、性別では、女性68人（80.0%）、男性59人（84.3%）であった。

次に、パソコンを持っていると回答した者に、インターネット（ウェブ）を利用する頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日利用する」と回答した者は、74人（58.3%）、性別では、女性34人（50.0%）、男性40人（67.8%）であり、男性の割合が有意に高かった（ $p<0.05$ ）。

また、パソコンを持っていると回答した者に、電子メールを利用する頻度を尋ねたところ、

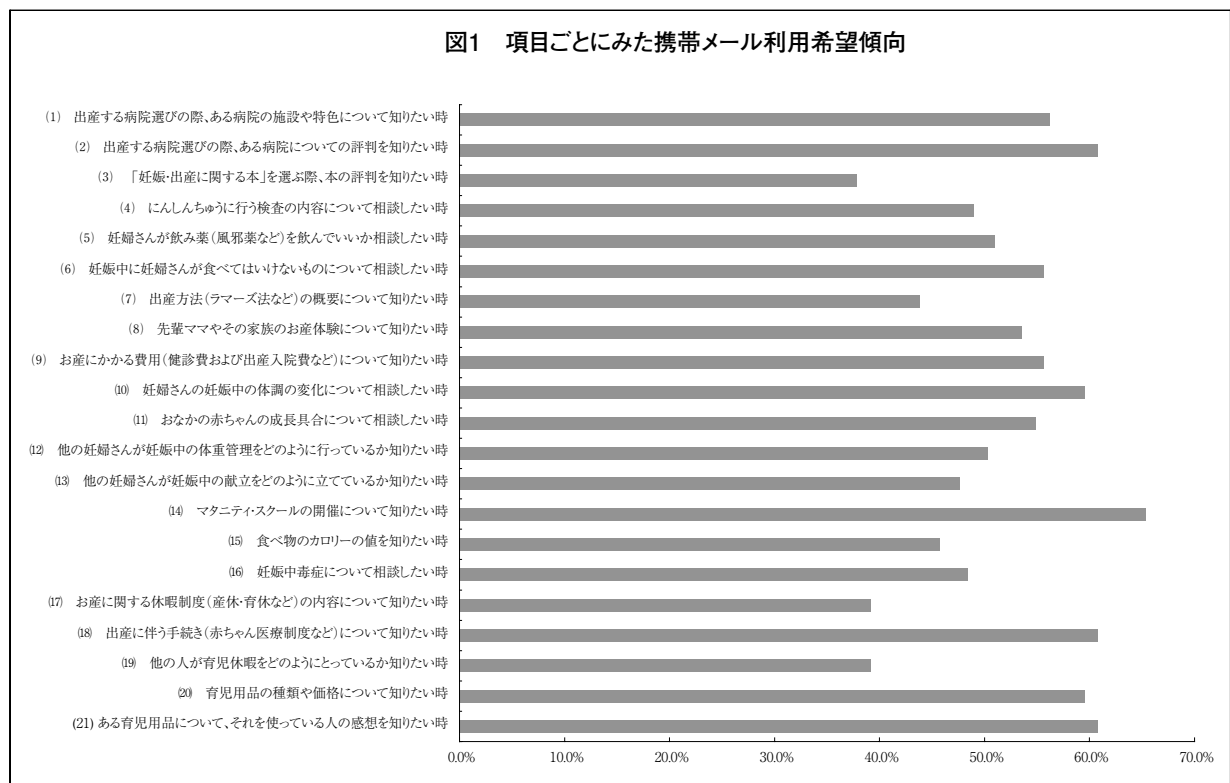
「ほとんど毎日利用する」と回答した者は、55人（43.7%）、性別では、女性21人（30.9%）、男性34人（58.6%）で、男性の割合が有意に高かった（ $p<0.01$ ）。

**(5) 項目ごとに見た携帯メール利用希望傾向**

次に、回答者全員に対し、現在携帯電話を持っているとして、妊娠・出産に関する予め想定された21項目の情報に対する、携帯メール利用希望傾向を4段階評価（使うと思う・どちらかといえば使うと思う・どちらかといえば使わないと思う・使わないと思う）で尋ねた。その結果、「マタニティ・スクールの開催について知りたい時」（65.4%）、「出産する病院選びの際、ある病院についての評判を知りたい時」（60.8%）、「出産に伴う手続き（赤ちゃん医療制度など）について知りたい時」（60.8%）、「ある育児用品について、それを使っている人の感想を知りたい時」（60.8%）の順で、「使うと思う・どちらかといえば使うと思う」と回答した者の割合が高かった。（図1）

**(6) 属性と携帯メール利用希望傾向との関連**

次に、属性別に携帯メール利用希望傾向について



てカイ二乗検定を行った。

まず、年齢と妊娠期間を、それぞれの平均値をカットオフポイントとして2群にわけ、上の子どもの有無、性別ごとに携帯メール利用希望傾向についてカイ二乗検定を行った。その結果、

妊娠期間と「出産する病院選びの際、ある病院についての評判を知りたい時」の項目間で有意な関連が見られ、妊娠期間が30週以上と回答した者で、「使うと思う・どちらかといえば使うと思う」(65.2%)と回答した者の割合が「使わな

表2-1 社会的支援及び、ITメディアの使い方と携帯メール利用希望傾向 (1)

	妊娠期間 30 週以上			すぐ相談できる 先輩ママあり			平均年齢 31 歳以上		
	使うと思う	使わないと思う	p 値	使うと思う	使わないと思う	p 値	使うと思う	使わないと思う	p 値
(1) 出産する病院選びの際、ある病院の施設や特色について知りたい時	61.2%	53.8%	n.s.	87.2%	77.6%	n.s.	55.3%	52.2%	n.s.
(2) 出産する病院選びの際、ある病院についての評判を知りたい時	65.2%	46.6%	p<0.05	87.1%	76.7%	n.s.	52.2%	56.7%	n.s.
(3) 「妊娠・出産に関する本」を選ぶ際、本の評判を知りたい時	60.3%	56.5%	n.s.	87.9%	80.0%	n.s.	51.7%	55.3%	n.s.
(4) 妊娠中に行う検査の内容について相談したい時	62.7%	53.3%	n.s.	89.3%	76.9%	p<0.05	54.7%	53.2%	n.s.
(5) 妊婦さんが飲み薬(風邪薬など)を飲んでいいか相談したい時	64.9%	50.7%	n.s.	84.6%	81.3%	n.s.	51.3%	56.8%	n.s.
(6) 妊娠中に妊婦さんが食べてはいけないものについて相談したい時	63.5%	50.8%	n.s.	85.9%	79.4%	n.s.	49.4%	59.7%	n.s.
(7) 出産方法(ラマーズ法など)の概要について知りたい時	59.1%	57.1%	n.s.	88.1%	79.1%	n.s.	56.7%	51.8%	n.s.
(8) 先輩ママやその家族のお産体験について知りたい時	63.0%	52.2%	n.s.	91.5%	73.2%	p<0.01	48.1%	60.6%	n.s.
(9) お産にかかる費用(健診費および出産入院費など)について知りたい時	61.9%	53.0%	n.s.	87.1%	77.9%	n.s.	52.4%	55.9%	n.s.
(10) 妊婦さんの妊娠中の体調の変化について相談したい時	60.0%	55.0%	n.s.	86.8%	77.4%	n.s.	52.2%	56.5%	n.s.
(11) おなかの赤ちゃんの成長具合について相談したい時	59.0%	56.7%	n.s.	83.3%	82.6%	n.s.	50.6%	58.0%	n.s.
(12) 他の妊婦さんが妊娠中の体重管理をどのように行っているか知りたい時	57.9%	58.1%	n.s.	87.0%	78.9%	n.s.	54.5%	53.3%	n.s.
(13) 他の妊婦さんが妊娠中の献立をどのように立てているか知りたい時	59.7%	56.4%	n.s.	83.6%	82.5%	n.s.	53.4%	54.4%	n.s.
(14) マタニティ・スクールの開催について知りたい時	60.0%	54.0%	n.s.	85.0%	79.2%	n.s.	53.5%	54.7%	n.s.
(15) 食べ物のカロリーの値を知りたい時	55.7%	60.0%	n.s.	85.7%	80.7%	n.s.	59.4%	49.4%	n.s.
(16) 妊娠中毒症について相談したい時	61.6%	54.5%	n.s.	83.8%	82.3%	n.s.	57.5%	50.6%	n.s.
(17) お産に関する休暇制度(産休・育休など)の内容について知りたい時	60.0%	56.7%	n.s.	85.0%	81.7%	n.s.	55.0%	53.3%	n.s.
(18) 出産に伴う手続き(赤ちゃん医療制度など)について知りたい時	63.0%	50.0%	n.s.	86.0%	78.3%	n.s.	55.4%	51.7%	n.s.
(19) 他の人が育児休暇をどのようにとっているか知りたい時	59.3%	57.1%	n.s.	85.0%	81.7%	n.s.	55.0%	53.3%	n.s.
(20) 育児用品の種類や価格について知りたい時	61.5%	52.5%	n.s.	85.7%	79.0%	n.s.	54.4%	53.2%	n.s.
(21) ある育児用品について、それを使っている人の感想を知りたい時	61.3%	52.6%	n.s.	86.0%	78.3%	n.s.	56.5%	50.0%	n.s.

表2-2 社会的支援及び、ITメディアの使い方と携帯メール利用希望傾向 (2)

	携帯電話あり			携帯ウェブをほぼ毎日使う			携帯メールをほぼ毎日使う		
	使うと思う	使わないと思う	p 値	使うと思う	使わないと思う	p 値	使うと思う	使わないと思う	p 値
(1) 出産する病院選びの際、ある病院の施設や特色について知りたい時	96.5%	97.0%	n.s.	14.5%	20.0%	n.s.	67.1%	55.7%	n.s.
(2) 出産する病院選びの際、ある病院についての評判を知りたい時	96.8%	96.7%	n.s.	15.6%	19.0%	n.s.	64.0%	59.6%	n.s.
(3) 「妊娠・出産に関する本」を選ぶ際、本の評判を知りたい時	94.8%	97.9%	n.s.	10.9%	20.4%	n.s.	69.2%	58.2%	n.s.
(4) 妊娠中に行う検査の内容について相談したい時	98.7%	94.9%	n.s.	13.5%	20.3%	n.s.	70.4%	54.2%	p<0.05
(5) 妊婦さんが飲み薬(風邪薬など)を飲んでいいか相談したい時	96.2%	97.3%	n.s.	13.3%	20.5%	n.s.	69.9%	54.3%	p<0.05
(6) 妊娠中に妊婦さんが食べてはいけないものについて相談したい時	96.5%	97.1%	n.s.	21.2%	13.4%	n.s.	65.8%	57.8%	n.s.
(7) 出産方法(ラマーズ法など)の概要について知りたい時	95.5%	97.7%	n.s.	10.9%	21.4%	n.s.	71.4%	55.0%	p<0.05
(8) 先輩ママやその家族のお産体験について知りたい時	100.0%	93.0%	n.s.	17.1%	16.7%	n.s.	67.5%	55.6%	n.s.
(9) お産にかかる費用(健診費および出産入院費など)について知りたい時	97.6%	95.6%	n.s.	13.3%	21.5%	n.s.	64.6%	59.0%	n.s.
(10) 妊婦さんの妊娠中の体調の変化について相談したい時	97.8%	95.2%	n.s.	15.7%	18.6%	n.s.	66.7%	55.4%	n.s.
(11) おなかの赤ちゃんの成長具合について相談したい時	97.6%	95.7%	n.s.	14.6%	19.7%	n.s.	67.1%	56.3%	n.s.
(12) 他の妊婦さんが妊娠中の体重管理をどのように行っているか知りたい時	97.4%	96.1%	n.s.	10.7%	23.3%	p<0.05	64.4%	60.0%	n.s.
(13) 他の妊婦さんが妊娠中の献立をどのように立てているか知りたい時	97.3%	96.3%	n.s.	12.7%	20.8%	n.s.	66.2%	58.7%	n.s.
(14) マタニティ・スクールの開催について知りたい時	96.0%	98.1%	n.s.	13.5%	23.1%	n.s.	69.2%	50.0%	p<0.05
(15) 食べ物のカロリーの値を知りたい時	95.7%	97.6%	n.s.	13.4%	19.8%	n.s.	68.8%	57.0%	n.s.
(16) 妊娠中毒症について相談したい時	97.3%	96.2%	n.s.	11.1%	22.4%	n.s.	67.1%	57.5%	n.s.
(17) お産に関する休暇制度(産休・育休など)の内容について知りたい時	96.7%	96.8%	n.s.	10.3%	21.1%	n.s.	64.3%	60.9%	n.s.
(18) 出産に伴う手続き(赤ちゃん医療制度など)について知りたい時	96.8%	96.7%	n.s.	14.4%	20.7%	n.s.	66.7%	55.4%	n.s.
(19) 他の人が育児休暇をどのようにとっているか知りたい時	96.7%	96.8%	n.s.	10.3%	21.1%	n.s.	61.6%	63.2%	n.s.
(20) 育児用品の種類や価格について知りたい時	97.8%	95.2%	n.s.	13.5%	22.0%	n.s.	65.5%	57.6%	n.s.
(21) ある育児用品について、それを使っている人の感想を知りたい時	97.8%	95.0%	n.s.	14.3%	21.1%	n.s.	65.1%	57.9%	n.s.

表2-3 社会的支援及び、ITメディアの使い方と携帯メール利用希望傾向（3）

	家庭 or 職場に PC あり			ウェブをほぼ毎日使う			電子メールをほぼ毎日使う		
	使うと思う	使わないと思う	p 値	使うと思う	使わないと思う	p 値	使うと思う	使わないと思う	p 値
(1) 出産する病院選びの際、ある病院の施設や特色について知りたい時	74.4%	91.0%	p<0.01	56.3%	60.7%	n.s.	39.1%	49.2%	n.s.
(2) 出産する病院選びの際、ある病院についての評判を知りたい時	73.1%	95.0%	p<0.001	57.4%	59.6%	n.s.	39.7%	49.1%	n.s.
(3) 「妊娠・出産に関する本」を選ぶ際、本の評判を知りたい時	75.9%	85.3%	n.s.	56.8%	59.3%	n.s.	38.6%	46.9%	n.s.
(4) 妊娠中に行う検査の内容について相談したい時	74.7%	88.5%	p<0.05	62.5%	55.1%	n.s.	42.9%	44.9%	n.s.
(5) 妊婦さんが飲み薬（風邪薬など）を飲んでいいか相談したい時	76.9%	86.7%	n.s.	65.0%	52.3%	n.s.	46.7%	41.5%	n.s.
(6) 妊娠中に妊婦さんが食べてはいけないものについて相談したい時	74.1%	91.2%	p<0.01	63.5%	53.2%	n.s.	42.9%	45.2%	n.s.
(7) 出産方法（ラマーズ法など）の概要について知りたい時	73.1%	88.4%	p<0.05	59.2%	57.9%	n.s.	44.9%	43.4%	n.s.
(8) 先輩ママやその家族のお産体験について知りたい時	76.8%	87.3%	n.s.	50.8%	66.1%	n.s.	38.1%	50.0%	n.s.
(9) お産にかかる費用（健診費および出産入院費など）について知りたい時	77.6%	86.8%	n.s.	60.6%	55.9%	n.s.	42.4%	45.8%	n.s.
(10) 妊婦さんの妊娠中の体調の変化について相談したい時	78.0%	87.1%	n.s.	60.6%	55.6%	n.s.	43.7%	44.4%	n.s.
(11) おなかの赤ちゃんの成長具合について相談したい時	76.2%	88.4%	p<0.05	54.7%	62.3%	n.s.	37.5%	50.8%	n.s.
(12) 他の妊婦さんが妊娠中の体重管理をどのように行っているか知りたい時	75.3%	88.2%	p<0.05	53.4%	62.7%	n.s.	39.7%	47.8%	n.s.
(13) 他の妊婦さんが妊娠中の献立をどのように立てているか知りたい時	79.5%	83.8%	n.s.	60.3%	56.7%	n.s.	44.8%	43.3%	n.s.
(14) マタニティ・スクールの開催について知りたい時	78.0%	88.7%	n.s.	59.0%	57.4%	n.s.	44.9%	42.6%	n.s.
(15) 食べ物のカロリーの値を知りたい時	81.4%	81.9%	n.s.	63.2%	54.4%	n.s.	45.6%	42.6%	n.s.
(16) 妊娠中毒症について相談したい時	77.0%	86.1%	n.s.	63.2%	54.4%	n.s.	43.9%	44.1%	n.s.
(17) お産に関する休暇制度（産休・育休など）の内容について知りたい時	81.7%	81.7%	n.s.	53.1%	61.8%	n.s.	38.8%	47.4%	n.s.
(18) 出産に伴う手続き（赤ちゃん医療制度など）について知りたい時	78.5%	86.7%	n.s.	58.9%	57.7%	n.s.	43.8%	44.2%	n.s.
(19) 他の人が育児休暇をどのようにとっているか知りたい時	80.0%	82.8%	n.s.	50.0%	63.6%	n.s.	39.6%	46.8%	n.s.
(20) 育児用品の種類や価格について知りたい時	81.3%	82.3%	n.s.	58.1%	58.8%	n.s.	44.6%	43.1%	n.s.
(21) ある育児用品について、それを使っている人の感想を知りたい時	80.6%	83.3%	n.s.	57.3%	60.0%	n.s.	40.0%	50.0%	n.s.

いと思う・どちらかといえば使わないと思う」(46.6%)と回答している者よりも有意に高かった (p<0.05)。(図2-1)

尚、年齢、性別、上の子どもの有無と有意な関連の見られる項目はなかった。

#### (7) 「先輩ママ」の有無と携帯メール利用希望傾向との関連

次に、「先輩ママ」と携帯メール利用希望傾向についてカイ二乗検定を行った。その結果、「先輩ママ」がいる者で、「妊娠中に行う検査の内容について相談したい時」に「使うと思う・どちらかといえば使うと思う」(89.3%)と回答している者の割合が、「使わないと思う・どちらかといえば使わないと思う」(76.9%)と回答している者よりも有意に高いことが明らかになった (p<0.05)。また、「先輩ママ」がいる者で、「先輩ママやその家族のお産体験について知りたい時」に「使うと思う・どちらかといえば使うと思う」(91.5%)と回答している者の割合が、「使わないと思う・どちらかといえば使わないと思う」(73.2%)と回答している者よりも有意に高いこ

とが明らかになった (p<0.01)。

#### (8) ITメディアの利用状況と携帯メール利用希望傾向との関連

次に、ITメディアの利用状況と携帯メール利用希望傾向についてカイ二乗検定を行った。その結果、携帯電話の有無別については、いずれの項目との間にも有意な差は見られなかったが、携帯ウェブを「ほぼ毎日使う」かどうか、「他の妊婦さんが妊娠中の体重管理をどのように行っているかを知りたい時」との項目の間で有意な差がみられた。具体的には、携帯ウェブを「ほぼ毎日使う」者で、「使うと思う・どちらかといえば使うと思う」(10.7%)と回答している者の割合が、「使わないと思う・どちらかといえば使わないと思う」(23.3%)と回答している者よりも有意に低いことが明らかになった (p<0.05)。また、携帯メールを「ほぼ毎日使う」かどうか、「妊娠中に行う検査の内容について相談した時」(p<0.05)「妊婦さんが飲み薬（風邪薬など）を飲んでいいか相談したい時」(p<0.05)「出産方法（ラマーズ法など）の概要について知りたい時」(p<0.05)「マ



タニティ・スクールの開催について知りたい時」(p<0.05)の各項目との間で有意な差がみられ、いずれも「ほぼ毎日使う」者で「使うと思う・どちらかといえば使うと思う」と回答している者の割合が、「使わないと思う・どちらかといえば使わないと思う」と回答している者よりも有意に高いことが明らかになった。

また、現在家庭または職場に、インターネット(ウェブ)のできるパソコンがあるかどうか、「出産する病院選びの際、ある病院の施設や特色について知りたい時」(p<0.01)「出産する病院選びの際、ある病院についての評判を知りたい時」(p<0.001)「妊娠中に行う検査の内容について相談したい時」(p<0.05)「妊娠中に妊婦さんが食べてはいけないものについて相談したい時」(p<0.01)、「出産方法(ラマーズ法など)の概要について知りたい時」(p<0.05)「おなかの赤ちゃんの成長具合について相談したい時」(p<0.05)「他の妊婦さんが妊娠中の体重管理をどのように行っているか知りたい時」(p<0.05)の各項目との間で有意な差が見られ、いずれも、パソコンがあると回答した者で、「使うと思う・どちらかといえば使うと思う」と回答している者の割合が、「使わないと思う・どちらかといえば使わないと思う」と回答している者よりも有意に低いことが明らかになった。なお、インターネット(ウェブ)をほぼ毎日使うかどうか、電子メールをほぼ毎日つかうかどうか、と各項目との間には有意な差は見られなかった。

#### 4. 考 察

##### (1) 属性ごとにみた携帯メール利用希望傾向

本研究では、妊娠出産に関する情報の種類ごとに、携帯メール利用希望傾向を、属性、社会的支援の有無、およびITメディアの利用状況との関連を明らかにした。その結果、性別で、社会的支援の有無、携帯電話およびパソコンの利用状況で有意な差が現われた一方、妊娠出産に関する各情報を入手するための携帯メール利用希望傾向については、性別で有意な差は見られなかった。これは、妊婦の方で、そのパートナーよりも、携帯メー

ルを使って妊娠出産に関する情報を実際に入手していると回答した者の割合が高い傾向があるという、平野ら<sup>8-9)</sup>の先行研究とは異なった結果を示している。このような結果の違いは、携帯メール利用希望傾向と、実際に携帯メールを使っているかどうかの違いであるということが出来る。

しかし、本研究の結果で興味深いのは、性別そのものよりも、社会的支援の有無や、ITメディアの利用状況の方が、携帯メール利用希望傾向に有意に関連しうることが示唆された点である。まず、すぐ相談できる「先輩ママ」の存在は、妊娠中に行う検査の内容や、先輩ママやその家族のお産体験について尋ねたいときに、携帯メールで問い合わせることが好まれる傾向を示していた。本研究においては、質問紙上の制約があり、携帯メールを用いて誰から情報を得るかという点については設問していないので明らかにすることはできなかったが、ここで想定される問い合わせ先の「先輩ママ」とは、おそらく、普段から携帯電話でメールをやりとりするいわゆる「メル友」の中の「先輩ママ」を想定したものであろう。それは、今日、再生産年齢にあたる女性の9割近くが携帯電話を保有しているため、最近出産した「先輩ママ」が携帯電話を持っている割合は少なくないと考えられるからである。

次にITメディアの利用状況であるが、携帯電話を持っているかないかでは各項目において携帯メール利用希望傾向の差が見られなかった一方、携帯ウェブや携帯メールの使用頻度の方が、入手したい妊娠出産関連情報の一部の項目と有意な関連をみていることは興味深い。この結果は、本研究の対象者と同年代の者の携帯電話の保有率が9割近くにまで達することを考えると、実際に携帯電話を持っているかどうかよりも、携帯電話を実際にどのように利用しているかということの方が、携帯メール利用希望傾向をよく予測しうことを示していよう。また、インターネット(ウェブ)のできるパソコンについてであるが、これは、現在家庭または職場にパソコンがあるかどうか、入手したい妊娠出産関連情報の一部の項目と有意な関連をみている。一方インターネット(ウェブ)

や電子メールの使用頻度は、関連をみていなかった。このことは、インターネット（ウェブ）を使い、パソコンを保有するという、妊娠出産情報を入手するメディアの一つを身近に持つことは、携帯メール利用希望傾向に影響を与えうることが考えられる反面、基本的にパソコン上のインターネット（ウェブ）や電子メールの使用は、携帯メールの使用とは切り離して考えられていることを示唆していると思われる。

以上の結果から、携帯メール利用希望傾向に影響を与えうるのは、「メル友」など自分の持つネットワークで実際に情報入手が期待できそうかどうか、情報を入手するための携帯電話を普段から使っているかどうか、ということであるといえるだろう。

## (2) 今後望まれるコンテンツと想定される利用者像

本研究はまた、携帯メールを利用した健康情報コンテンツに期待される情報の特性及び、その利用者像を浮かび上がらせた。まず、項目ごとにみた携帯メール利用希望傾向の結果は、「マタニティ・スクールの開催について知りたい時」が最も多く、65%の回答者が「使うと思う・どちらかといえば使うと思う」と回答していることを明らかにした。このことは、パソコンに比べ比較的小さな携帯電話のブラウザでもあまり苦労しないで見ることができる、量の比較的多くない情報が、携帯メールの利用に際して好まれていることを示唆している。マタニティ・スクールの開催に関する情報は、平野ら<sup>9)</sup>が先行研究の自由回答の分析で、望まれる健康情報コンテンツとして指摘している「医療機関からのお知らせ」に該当している。本研究でもまた、携帯メールを通じて入手を希望する健康情報として最も多くの回答を得ていることから、携帯電話を用いた情報コンテンツとしてニーズが高いことが示唆される。このような「医療機関からのお知らせ」は、予め関連情報を入手してコンテンツに記載し、その後は定期的に更新していくことで情報管理ができる、比較的实现可能性の高いものである。このような情報へのアクセスに関しては、「携帯メールをほぼ毎日使

う」と回答している者で「マタニティ・スクールの開催について知りたい時」に「使うと思う・どちらかといえば使うと思う」と回答している者の割合がそうでない者よりも有意に高いことから想定できるように、携帯メールの利便性を十分に活かしうることを、利用者も理解しているものと思われる。

一方、本研究の結果は、「出産する病院選びの際、ある病院についての評判を知りたいとき」「ある育児用品について、それを使っている人の感想を知りたい時」が希望する健康情報コンテンツの第二位（同順位）であがっていることから明らかのように、情報を提供する側と受け取る側の双方向性を重視する利用者の傾向をも浮き彫りにしたといえる。平野ら<sup>9)</sup>は、先行研究の自由回答の分析から、携帯メールの利用者が、妊産婦の仲間同士の連帯感を高めることを期待する傾向があることを指摘しているが、本研究の結果は、妊産婦同士ばかりではなく、実際に妊娠・出産を経験した「先輩ママ」をも巻き込み、相互の情報交換を行うことができる健康情報コンテンツが望まれていることを示している。いずれにせよ、携帯メールは、親和欲求<sup>10)</sup>を充足する手段として期待されており、その期待に見合うコンテンツを構築することは必至であると思われる。

次に、ITメディアの利用状況と、携帯メール利用希望傾向を情報ごとに見ると、家庭または職場にパソコンを持っていると回答している者は、「出産する病院選びの際、ある病院の施設や特色について知りたい時」「出産する病院選びの際、ある病院についての評判を知りたい時」「出産方法（ラマーズ法など）の概要について知りたい時」などといった、今後の妊娠・出産に関して自分の判断材料とするために、より多くの正確な情報を得ることが期待される内容に関しては、「使わないと思う」と回答した者が「使うと思う」と回答した者の割合よりも有意に高かった。また、「妊娠中に行う検査の内容について相談したい時」「妊娠中に妊婦さんが食べてはいけないものについて相談したい時」「おなかの赤ちゃんの成長具合について相談したい時」「他の妊婦さんが妊娠中の体

重管理をどのように行っているか知りたい時」のように、妊婦や赤ちゃんの体調に直接的・間接的に関与する情報については、「使わないと思う」と回答した者が「使うと思う」と回答した者の割合よりも有意に高かった。これらのことから、家庭や職場にインターネット（ウェブ）に接続できるパソコンがあり、それをを用いて情報収集することに慣れている者にあつては、メディア受容能力<sup>11)</sup>をもち、メディアを通して入手した情報の内容を批判的に受容・解釈することができていることが考えられる。言い換えれば、パソコンというメディアを日常的に使うことを通して、携帯メールの長所、短所を客観的に把握することができているといえるのである。従って、パソコンと比べ携帯メールにおいては、一度に入手できる情報量が限られていることなどの理由から、より正確な情報をより多く入手したい時や、妊婦や赤ちゃんの健康に直接的・間接的に関与するような情報を収集する時には、携帯メールに過度に依存しない傾向があると言ってよいだろう。

## 5. おわりに

本研究を通して、携帯メールを使って入手を希望する、妊娠・出産に関する健康情報の種類およびそれぞれの健康情報を求める利用者の社会的背景を明らかにすることができた。その結果、本研究の対象者は、携帯メールの特徴である双方向性を重視し、それを活かした妊娠・出産に関する健康情報コンテンツの構築を希望していることが明らかになった。その一方で、日常的にパソコンを利用している者にあつては、パソコンに比べ伝えられる情報量の少ない携帯メールの限界をも客観的に把握し、過度に携帯メールに依存しない傾向があることも明らかになった。

なお、本研究の限界としては、調査対象者が、乳児用品会社が主催した出産前準備教室の出席者に限られたことであった。これは、本研究の対象者が、当該乳児用品会社となんらかのかたちで接点をもち、当該出産前準備教室についての情報を知りえたものに限定されていることを示している。このデータを一般化するためには、より多様な方

法で対象者をサンプリングする必要があると思われる。

情報化社会の今日、様々なコンテンツが、市場のニーズも十分に把握せず、内容もあまり検討されないまま、大量に構築されつつある。ことに妊娠・出産に関する情報は「情報過多」の傾向があるが<sup>12)</sup>、健康情報コンテンツの提供側としては、メディアの特性に応じた情報の選択が必須である。それと同時に、利用者も、提供された情報を客観的に解釈したり、受容したりする能力が期待されるであろう。

## 謝辞：

本研究は、財団法人カシオ科学振興財団第22回平成16年度カシオ科学振興財団助成研究「携帯電話を用いた、妊産婦に対する健康情報コンテンツの構築とその評価に関する研究」（代表：平野）の助成を受けて行われた。

## 6. 引用文献

- 1) 総務省, 平成16年度通信利用動向調査. ([http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/050510\\_1.html](http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/050510_1.html))
- 2) 総務省, 平成15年度通信利用動向調査. ([http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/040414\\_1.html](http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/040414_1.html))
- 3) 和田サヨ子：妊婦のストレス. 新道幸恵, 和田サヨ子（編）：母性の社会心理的側面と看護ケア, 医学書院, 東京, 2000, pp12-20
- 4) カレン・ローゼンバーグ, エリザベス・トムソン, 堀内成子, 飯沼和三：女性と出生前検査-安心という名の幻想, 日本アクセル・シュプリンガー, 東京, 1996
- 5) レズリー・ページ（鈴木江三子訳）：新助産学-実践における科学と感性. メディカ出版, 大阪, 2002, p94
- 6) 島悟, 佐藤恵美：妊娠・出産とうつ病. 臨床精神医学 33(2)：pp141-148, 2004
- 7) 北村俊則：周産期精神医学における疫学的アプローチ-発症危険因子モデルの検討. 臨床精神医学 33(8)：pp979-982, 2004
- 8) 平野（小原）裕子, 平田伸子：携帯電話によ

- る妊娠・出産関連情報の入手に関する研究.  
九州大学医学部保健学科紀要 4 : pp27-36,  
2004
- 9) 平野（小原）裕子，平田伸子：携帯電話を用いた妊娠・出産に関する健康情報収集-初産婦とその夫を対象として. 母性衛生 46(2) : pp421-429, 2005
- 10) 諸井克英：情報通信の病理：親和コミュニケーションの彷徨. 廣井脩，船津衛（編）：情報通信と社会心理，北樹出版，東京，2000，pp155-172
- 11) 岡田朋之：ケータイから学ぶということ. 岡田朋之，松田美佐（編）：ケータイ学入門-メディア・コミュニケーションから読み解く現代社会-，有斐閣選書，東京，2002，p14
- 12) 柳澤薫：退院後の授乳生活. ペリネイタルケア 21巻5号，pp394-399，2005